中沢秀平 藤岡市議 活動報告
「砂原だより」
発行：「砂原だより」編集委員会（代表：小田）
第 34 区立石新田
人口　886 人
世帯数　418 世帯
（2017 年 8 月 1 日現在）
第 3 号
2017.9.1

○市民アンケートへのご協力ありがとうございました。

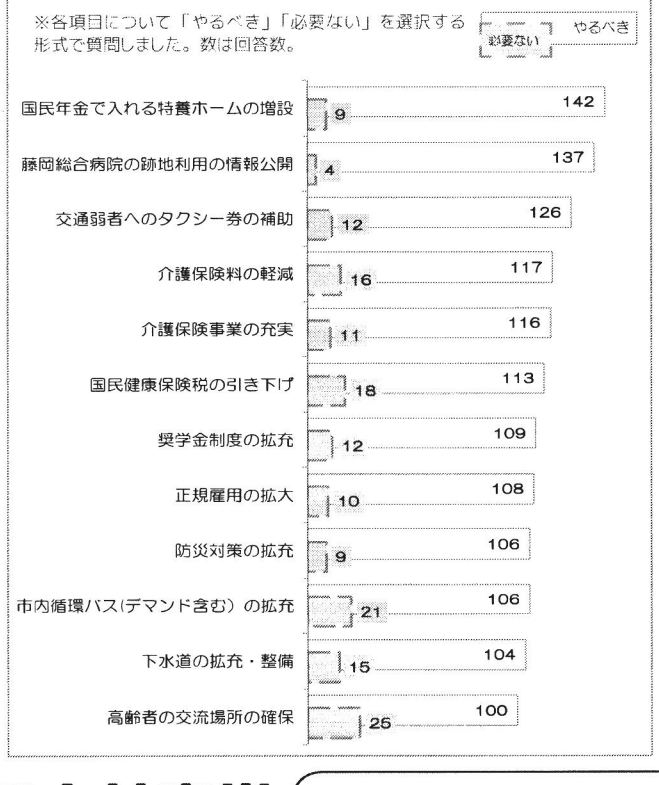
今年の 4 月から 5 月末にかけて、日本共産党藤岡市委員会では「市民アンケート」に取り組んできました。地元のみなさんにも多くのご協力を頂き、ありがとうございます。

市政に望むこととして 3 番目に挙がった「交通弱者へのタクシー券補助」は立石新田でも強く要望されています。平成 24 年に高崎市のぐるりんバスが通らなくなって以降、立石新田は公共交通の空白地域となっています。そのため、通院などの際にタクシーを利用すると多額の出費が必要となり、多くのみなさんから不満の声が聞かれます。

日本共産党では、タクシー券の補助を含め、公共交通の充実は市民の多くの要求であることを議会で訴え、実現をめざしています。

【藤岡市政に望むこととして要望の多い項目】

※各項目について「やるべき」「必要ない」を選択する形式で質問しました。数は回答数。



○寄せられた声を議会へ

公立藤岡総合病院（藤総）の職員からの切実な声

アンケートには自由意見として様々な声も寄せられています。藤総のある職員からは「看護師を増やしてほしい。過重労働でスタッフみんな病気になりそう。上司も労基署も取り合わず、どこに相談すれば改善されるのか。」という切実な訴えがありました。

病院議会の臨時会で質問

8 月 4 日に開かれた病院議会の臨時会で、今回寄せられた問題を取り上げました。

執行部の答弁は「過重労働に対しては部署や個人で業務の効率化をすすめる」というもので、現場の声に応えるものではありませんでした。また、労務の相談をする機関として藤岡市と藤総とで共同設置している公平委員会について「周知していなかった」との回答でした。

現場の声を聞き、人員の拡充を

アンケートには「業務の絶対量が多く、残業があたりまえ」ともあります。藤総では患者と看護師の割合が 7:1 という最も人員体制の充実した看護基準を採用しています。しかしこの基準を満たすためには多くの業務が職員に課され、むしろ忙しくなっているという指摘もあります。また、そもそも 7:1 という基準が現場の実態では人員不足であるともいわれています。

本来例外である残業が「あたりまえ」ということは人員が足りていないということです。人員不足という根本から目を背け、業務の効率化をすすめることは、過重労働の責任を個々に押し付けるものです。

議会では、まずは現場の状態を把握するため、現場が声を寄せられる仕組みの周知を徹底すること、そして根本的には人員の拡充が必要であることを訴えました。

日本共産党
藤岡市委員会
中沢秀平（日本共産党藤岡市議会議員）HP ： nakazawashuhei.net
Email：shuhei430@outlook.jp　FAX： 02046653381